

2006. p. 148-52.

- 3) 横山淳一. XIV. 代謝・栄養障害 4. 代謝・栄養障害と主要症候. 金澤一郎, 北原光夫, 山口 徹, 小俣政男総編集. 内科学. 東京: 医学書院, 2006. p. 2317-20.
- 4) 東條克能. 内分泌障害. 望月正武監修. 術前患者評価・管理の手引. 東京: メディカルサイエンスインターナショナル, 2006. p. 133-66.
- 5) 西村理明, 田嶋尚子. チアゾリジン薬が期待される理由 4) 糖尿病発症抑制. 門脇 孝. 期待されるチアゾリジン薬. 東京: フジメディカル, 2006. p. 82-7.
- 6) 加藤秀一, 森 豊, 田嶋尚子. インスリン抵抗性の予防と治療, 食事療法. 松澤祐次, 藤田敏郎, 門脇 孝編. インスリン抵抗性. 東京: 医学書院, 2006. p. 112-6.

## V. その他

- 1) 伊藤朝子, 桑田雅雄, 川口美佐男, 成宮 学. 深部静脈血栓症を合併したグレーブス病の一例. 医療 2006; 60(10): 648-51.
- 2) 竹内瑞穂, 東條克能, 齊藤隆俊, 神尾正巳, 佐野壽昭, 沖 隆, 柴田洋孝, 田嶋尚子. ACTH 高値を示した GH・PRL 同時産生腺腫の 1 例. ホルモンと臨 2007; 55: 85-9.
- 3) 中井 望, 岡 尚省, 林 毅, 海老澤高憲, 阿久津寿江, 蔵田英明, 田嶋尚子. 典型的な経過と画像診断により診断しえた糖尿病性舞踏病の一例. Diabetes J 2007; 35(1): 20-3.
- 4) 井坂 剛, 谷口幹太, 海老澤高憲, 坂本敬子, 東條克能, 田嶋尚子. オクトレオチド LAR 投与により安定した血糖コントロールが得られたインスリノーマの 1 例. ホルモンと臨 2006; 54: 184-9.
- 5) 吉原理恵, 染谷泰寿, 横山淳一, 田嶋尚子. 生活習慣は正による減量でインスリン抵抗性が著明に改善し, 妊娠, 出産に至った多嚢胞性卵巣症候群併糖尿病の 1 例. 糖尿病 2006; 49(7): 541-4.

## 腫瘍・血液内科

教授: 相羽 恵介	臨床腫瘍学, 癌の化学療法
教授: 小林 直	臨床腫瘍学, 癌の化学療法
助教授: 溝呂木ふみ	血液腫瘍学
助教授: 薄井 紀子	血液腫瘍学, 癌の化学療法
助教授: 井上 大輔	臨床腫瘍学, 緩和医療学
講師: 片山 俊夫	血液内科学
講師: 柵山 年和	臨床腫瘍学, 医学教育学
講師: 島田 貴	血液内科学
講師: 浅井 治	血液腫瘍学, 造血幹細胞移植学
講師: 増岡 秀一	血液内科学
講師: 土橋 史明	血液腫瘍学, 癌の化学療法
講師: 西脇 嘉一	臨床腫瘍学, 造血幹細胞移植学

## 研究概要

当教室は平成 18 年 (2006 年) 9 月 1 日に旧血液・腫瘍内科と旧臨床腫瘍部が合同し, 腫瘍・血液内科として新設された。よって 2006 年度の両組織の活動を可及的に記載した。

### I. 臨床研究

#### 1. 急性骨髄性白血病

i) 本邦最大の日本白血病研究グループ (Japan Adult Leukemia Study Group: JALSG) に参加し, 65 歳未満の成人未治療急性骨髄性白血病 (AML) に対して, dose-dense therapy のコンセプトを導入した AML201 プロトコルは, 2005 年 11 月で 1075 例が登録終了された。

ii) gemtuzumab ozogamicin (GO) は CD33 に対するヒト化モノクローナル抗体に calicheamycin を結合させた新規抗癌剤で 2006 年 9 月に承認された。65 歳未満の成人再発・治療抵抗性 AML に対して, JALSG の AML206 プロトコルを立案し, 当科に研究事務局を設置して研究が開始された。併用化学療法 GO+IDR+Ara-C 療法と GO+DNR+Ara-C 療法の第 I 相臨床試験である。

iii) 65 歳以上の高齢 AML に対しては, Aged Double-7 プロトコルを継続研究した。

iv) 65 歳未満の未治療成人 AML に対しては, JALSG AML201 VLA4 研究に参加し, VLA4 分子の発現と予後の関連性を探索研究中である。

#### 2. 急性リンパ性白血病 (ALL)

i) ALL202 に引き続き参加し, 寛解導入例には

速やかに同種骨髄移植を施行した。

ii) 未治療フィラデルフィア染色体陽性成人 ALL に対するイマチニブ併用化学療法との臨床第 II 相試験の Ph+ALL202 プロトコールに参加した。成績は J Clin Oncol 2006; 24: 460 に報告した。imatinib を標準的な寛解導入療法と併用してその有効性を検討したが、完全寛解率 96%, 2 年無イベント生存率 (EFS) 50%, 2 年全生存率 60% と従来の成績を著しく上回る良好な結果となった。附属病院では、3 例登録、全例完全寛解で全例同種造血幹細胞移植を施行し、良好な経過である。

### 3. 慢性骨髄性白血病に対する臨床研究

a) 未治療慢性期慢性骨髄性白血病 (CML-CP) に対しては imatinib の市販後臨床試験および JALSG CML-202 に参加した。

b) Imatinib 抵抗性 CML-CP に対しては、nilotinib および dasatinib の第 I/II 相試験に参加した。各々 2 例登録した。

### 4. 悪性リンパ腫に対する臨床研究

a) Japan Clinical Oncology Group (JCOG) のリンパ腫グループ (LSG) に参加研究した。未治療進行期低悪性度 B 細胞リンパ腫に対しては、JCOG0203-MF 治療研究に参加し、1 人登録した。未治療限局期鼻 T/NK リンパ腫に対する放射線治療と DeVIC 療法との同時併用の第 I/II 相試験は終了し、1 人を登録し良好な効果を得た。

b) 再発・難治性 B 細胞リンパ腫に対しては抗 CD20 モノクローナル抗体 (rituximab) を、EPOCH 療法に併用した R-EPOCH 療法を臨床第 II 相試験として施行した。

### 5. 多発性骨髄腫に対する臨床研究

再発・難治例に対しては、当科独自の thalidomide+dexamethasone の併用療法をパイロット研究として施行し、患者数は登録予定数に達した。

### 6. 造血幹細胞移植の臨床研究

a) 適応症例に対し積極的に行っている。GVHD の発症のメカニズムについて臨床的および基礎的研究を行った。

b) 骨髄非破壊の前処置による造血幹細胞移植: 年齢や合併症により高リスクの AML, MDS に対して介入研究として施行した。

c) 同種骨髄移植における移植関連 thrombotic microangiopathy (TMA) に関する検討: 各種サイトカインの関与を患者血清を用いて解析した。

### 7. 固形癌

関連各科と協同して研究を進行している。

### a) 乳癌

再発予防補助化学療法として、FEC100±TXT 療法を、術前化学療法として FEC100 療法→TXT 療法を、再発進行癌には、AT 療法→TXT+HER 療法を行った。EGFR の dual inhibitor であるラパチニブの第 II 相試験に参加して 3 例登録した。

### b) 食道癌

化学放射線療法として low dose FP 療法を施行し、5-FU は隔日 24 時間投与とした。

### c) 胃癌

S-1+CDDP 療法を再発進行例、補助化学療法例に行っている。

### d) 大腸癌

FOLFOX 療法, FOLFIRI 療法を再発進行例、補助化学療法例に行っている。

### 8. 緩和治療

緩和医療チームの主体として病棟回診、コンサルテーションを行った。疼痛管理など当院では従来にない試みを行っている。

## II. 基礎研究

1. MM における免疫グロブリン産生の制御: 治療による免疫グロブリンの産生修飾により MM 細胞の増殖動態の変化を分子レベルで検討している。

2. MM と MGUS の M タンパクの違いの検討: MGUS の M タンパクと骨髄腫のそれとの構造的な差異について共立薬科大学との共同研究プロジェクトとして遂行中である。患者 3 人より血液を採取し、分析を開始した。

3. ドナー T 細胞に誘導される GVHD 発症機序の解明: 同種造血幹細胞移植時 GVHD の発症に、ドナー由来の T 細胞がどのような役割を果たしているかを解明し、治療への応用を検討している。

4. プロテアソーム阻害剤により蓄積する新規標的蛋白質の同定: MM の有望な新規薬剤の薬剤的作用機序の解明を分子レベルで検討している。

### 「点検・評価」

#### 1. 臨床研究

a) 当教室は多施設共同研究に積極的に参加し、一部の結果は共同研究者として世界的に評価の高い journal へ掲載された。

① JALSG においては、薄井が AML206 治療研究の責任者に選出され、プロトコールの立案・作成に関わり、附属病院に事務局が設置された。

② 厚生労働省科学研究費補助金・がん臨床研究事業「難治性白血病に対する標準的治療法の確立に

関する研究」班（班長 大西一功）班員の薄井が公的資金を得て、臨床研究の遂行が可能となった。

③ JALSG の新規 Ph+ALL プロトコール小委員会委員に土橋が選出され、新規プロトコールの作成に大きく関与している。

④ リンパ腫グループ (JCOG) においては、附属病院と第3病院が治療研究に参加し、グループ内で高い評価を得てきた。溝呂木、島田、薄井、土橋は、JCOG のプロトコール作成にも関与できた。

b) 当教室独自の臨床研究は精力的に施行され、附属病院リンパ腫の治療成績について、その成果が peer journal に掲載された。症例研究も多くの学会発表を行っており、一部は peer journal に掲載された。症例研究は臨床家にとって非常に重要な研究であることを自覚し、積極的に論文化する姿勢を今後も維持する必要がある。問題解決志向の小規模パイロット研究を積極的に推し進めることも重要である。それらの研究に基づき、多施設共同研究での検討へとつなげることが重要と考える。

## 2. 基礎研究における点検・評価

基礎研究は、生化学講座、細菌学講座、DNA 医学研究所など関連する講座や共立薬科大学との共同研究が推し進められている。研究結果の幾つかは論文化されている。

海外の NIA/NIH の研究所とは、リンパ系腫瘍（骨髄腫を含む）を中心とした共同研究を遂行してきた。これらの研究成果の論文化を積極的に行う必要がある。

## 研究業績

### I. 原著論文

- 1) Sekikawa T, Iwase S, Saito S, Arakawa Y, Agawa M, Horiguchi-Yamada J, Yamada H. JAS-R, a new megakaryo-erythroid leukemic cell line that secretes erythropoietin. *Anticancer Res* 2006; 26(2A): 843-50.
- 2) Yamada H, Arakawa Y, Saito S, Agawa M, Kano Y, Horiguchi-Yamada J. Depsipeptide-resistant KU812 cells show reversible P-glycoprotein expression, hyper-acetylated histones, and modulated gene expression profile. *Leuk Res* 2006; 30(6): 723-34.
- 3) Mizoroki F, Hirose Y, Sano M, Fukuda H, Tobinai K, Nakata M, Taniwaki M, Kawano F, Uozumi K, Sawada K, Fukuhara S, Nasu K, Ohno Y, Toki H, Togawa A, Kikuchi M, Hotta T, Shimoyama M; Japan Clinical Oncology Group-

Lymphoma Study Group (JCOG-LSG). A phase II study of VEPA/FEPP chemotherapy for aggressive lymphoma in elderly patients: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG9203. *Int J Hematol* 2006; 83(1): 55-62.

- 4) Arakawa Y, Suzuki H, Saito S, Yamada H. Novel missense mutation of the DNA topoisomerase I gene in AN-38-resistant DLD-1 cells. *Mol Cancer Ther* 2006; 5(3): 502-8.
- 5) Minami J, Takada K, Aoki K, Shimada Y, Okawa Y, Usui N, Ohkawa K. Purification and characterization of C-terminal truncated forms of histone H2A in monocytic THP-1 cells. *Int J Biochem Cell Biol* 2007; 39(1): 171-80.
- 6) Tozaki M, Kobayashi T, Uno S, Aiba K, Takeyama H, Shioya H, Tabei I, Toriumi Y, Suzuki M, Fukuda K. Breast-conserving surgery after chemotherapy: value of MDCT for determining tumor distribution and shrinkage pattern. *AJR Am J Roentgenol* 2006; 186(2): 431-9.
- 7) Dobashi N, Asai O, Yano S, Osawa H, Takei Y, Yamaguchi Y, Saito T, Yamazaki H, Kobayashi T, Usui N. Aclarubicin plus behenoyl cytarabine and prednisolone for previously treated acute myeloid leukemia patients. *Leuk Lymphoma* 2006; 47(10): 2203-7.
- 8) Gotoh A, Ohyashiki K, Oshimi K, Usui N, Hotta T, Dan K, Ikeda Y. Lung injury associated with bortezomib therapy in relapsed/refractory multiple myeloma in Japan: a questionnaire-based report from the "lung injury by bortezomib" joint committee of the Japanese society of hematology and the Japanese society of clinical hematology. *Int J Hematol* 2006; 84(5): 406-12.
- 9) Dan K, Yamada T, Kimura Y, Usui N, Okamoto S, Sugihara T, Takai K, Masuda M, Mori M; Japanese Elderly Leukemia and Lymphoma Study Group. Clinical features of polycythemia vera and essential thrombocythemia in Japan: retrospective analysis of a nationwide survey by the Japanese Elderly Leukemia and Lymphoma Study Group. *Int J Hematol* 2006; 83(5): 443-9.
- 10) Dobashi N, Yamaguchi Y, Asai O, Yano S, Osawa H, Yahagi Y, Takei Y, Sugiyama K, Saito T, Usui N. Intensifying daunorubicin in induction for patients with core binding factor leukemia. *Int J Hematol* 2006; 84(5): 463-4.
- 11) Yano S, Asai O, Dobashi N, Osawa H, Takei Y, Takahara S, Otsubo H, Ogasawara Y, Yamaguchi

- Y, Saito T, Minami J, Hoshi Y, Usui N. Long-term Follow-up of Autologous Stem Cell Transplantation for Patients with Aggressive Non-Hodgkin Lymphoma Who Had Bone Marrow Involvement at Initial Diagnosis in the Pre-Rituximab Era. Clin Lymphoma Myeloma 2007; 7(5): 361-3.
- 12) 後藤明彦, 大屋敷一馬, 押味和夫, 薄井紀子, 堀田知光, 壇和夫, 池田康夫, 日本血液学会・日本臨床血液学会合同ボルテゾミブ肺障害調査委員会. 日本における再発・難治性多発性骨髄腫に対する個人輸入ボルテゾミブ治療に関連した肺障害 日本血液学会・日本臨床血液学会アンケート調査に基づく「ボルテゾミブ肺障害調査委員会」よりのレポート. 臨血 2006; 47(12): 1521-7.

## II. 総説

- 1) 相羽恵介, 毛利順一. DIF DIF の効果増強. コンセンサス癌治療 2007; 6(1): 54-5.
- 2) 山口祐子, 薄井紀子. 【造血器腫瘍の分子標的療法】標準的治療にみる分子標的療法 ゲムツズマブ・オゾガマイシン 急性骨髄性白血病治療のあらたな治療戦略におけるその役割. 医のあゆみ 2007; 220(9): 693-8.
- 3) 薄井紀子. 【造血器腫瘍 基礎・臨床領域における最新の研究動向】臨床編 治療の実験 急性白血病 分子標的療法 ゲムツズマブオゾガマイシン. 日臨 2007; 65(増刊): 494-8.
- 4) 薄井紀子. 【高齢者癌薬物療法の進歩】造血器腫瘍. 癌と化療 2007; 34(3): 358-66.
- 5) 薄井紀子. 【イマチニブ時代における慢性骨髄性白血病 (CML) update】イマチニブで CML は治療できるか IRIS 試験 60ヵ月 (5年) の解析結果. 血腫瘍 2007; 54(2): 129-36.
- 6) 矢萩裕一, 薄井紀子. 抗がん剤を知る 薬剤選択のための知識 リツキシマブ. 臨腫瘍プラクティス 2007; 3(1): 74-8.
- 7) 薄井紀子. 【癌抗体療法】血液腫瘍領域 Gemtuzumab ozogamicin (Mylotarg) を用いた急性骨髄性白血病の治療. 医のあゆみ 2006; 219(1): 45-9.
- 8) 安藤尚美, 加藤潤一郎, 須田奈美, 菊野史豊, 毛利順一, 相羽恵介. 消化器がんの化学療法. 外混合病棟ケア 2006; 5(3): 98-103.
- 9) 薄井紀子. 悪性リンパ腫最近の治療戦略. 臨と研 2006; 83(5): 699-706.
- 10) 薄井紀子, 陣内逸郎, 大西一功, 松村 到, Hughes TP. イマチニブ時代における CML の治療目標. 血腫瘍 2006; 52(5 別冊)
- 11) 薄井紀子. Ph 陽性急性リンパ芽球性白血病の治療戦略. 血腫瘍 2006; 52(4): 466-74.

- 12) 畠 清彦, 薄井紀子, Cripe LD. 【耐性 (克服) の機序と新規標的】造血器腫瘍分野の分子標的治療 最近の進歩. がん分子標的治療 2006; 4(4): 246-53.
- 13) 土橋史明, 薄井紀子. マントル細胞リンパ腫に対する治療モダリティの現況. 血腫瘍 2006; 53(6): 608-13.
- 14) 薄井紀子. 【癌抗体療法】血液腫瘍領域 Gemtuzumab ozogamicin (Mylotarg) を用いた急性骨髄性白血病の治療. 医のあゆみ 2006; 219(1): 45-9.
- 15) 矢野真吾, 相羽恵介. 骨・軟部組織の悪性リンパ腫. 臨腫瘍プラクティス 2007; 3(1): 70-3.
- 16) 薄井紀子. 抗 CD33 抗体. Pharma Medica 2007; 25(3): 27-32.
- 17) 矢萩裕一, 町島智人, 土橋史明, 矢野真吾, 大澤 浩, 武井 豊, 高原 忍, 山口祐子, 南 次郎, 丸山 大, 小林達之助, 浅井 治, 薄井紀子, 相羽恵介. Gemtuzumab Ozogamicin を分割投与し効果を得た治療抵抗性高齢者急性骨髄性白血病の 1 例. 臨血 2006; 48(2): 152.

## III. 学会発表

- 1) 小林 直. 乳癌術前/術後化学療法の実際. 福島乳癌懇話会. 福島, 5月.
- 2) 吉沢明孝, 井上大輔, 行田泰明, 谷藤泰正. 医学生に対する緩和ケア教育の検討. 第 52 回日本麻酔学会総会. 神戸, 6月.
- 3) 吉沢明孝, 井上大輔, 行田泰明, 谷藤泰正. 在宅医療における麻酔科出身の緩和ケア医の役割. 第 52 回日本麻酔学会総会. 神戸, 6月.
- 1) 柵山年和, 藤崎康人, 大野正人, 横山正人. (シンポジウム) PEG の管理. 第 82 回日本消化器内視鏡学会関東地方会. 東京, 6月.
- 4) 小林 直. Neoadjuvant chemotherapy—過去・現在から今後へ—. 第 119 回乳癌研究会. 東京, 6月.
- 5) 柵山年和, 福島 統. 新初期医師臨床研修制度の問題点. 第 38 回日本医学教育学会大会. 奈良, 7月.
- 6) 幸田公人, 井上大輔, 石地尚興, 中川秀巳. 疼痛コントロールに難渋した無色素性悪性黒色腫の一例. 第 11 回日本緩和医療学会総会. 神戸, 6月.
- 7) 吉澤明孝, 行田泰明, 井上大輔, 柵山年和, 落合和徳. 医学生, 臨床研修医への緩和ケア教育の必要性. 第 11 回日本緩和医療学会総会. 神戸, 6月.
- 8) 小林 直, 柵山年和, 相羽恵介, 井上大輔, 薄井紀子, 浅井 治, 内田 賢, 兼平千裕, 鈴木正章, 倉石安庸. 乳癌の adjuvant FEC100 療法の副作用とマネージメント. 第 14 回日本乳癌学会学術総会. 石川, 7月. [日乳癌会プログラム抄集 2006; 14: 231]
- 9) 小林 直. 再発進行乳癌の治療戦略—標準的治療と多様な治療選択肢. 順天堂乳腺センターカンファレン

- ス。東京，7月。
- 10) 井上大輔，柵山年和，福島 統。効果的緩和ケア教育に関する検討。第38回日本医学教育学会大会。奈良，7月。
    - 1) 林和美，井上大輔，市場 保，柵山年和，相羽恵介，小林 直，落合和徳。化学療法と多彩な症状変化により在宅移行時機の判断が困難であった1症例。第17回日本在宅医療研究会学術集会。横浜，7月。
  - 11) 安藤尚美，柵山年和，井上大輔，相羽恵介，小林 直，落合和徳。病棟薬剤師の在宅移行への役割。第17回日本在宅医療研究会学術集会。横浜，7月。
  - 12) Inoue D, Hayashi K, Yoshizawa A, Mouri J, Sakuyama T, Aiba K, Kobayashi T, Ochiai K. A delayed case in switching from inpatient treatment to home-based care due to changes in pain and the other symptoms following chemotherapy. The 3rd Asia Pacific Symposium on Pain Control. Singapore, Sept.
  - 13) Inoue D, Mori S, Sakuyama T, Mohri J, Aiba K, Kobayash T, Ochiai K. Usefulness of oxycodone for pain control in patients with Ewing's sarcoma. The 3rd Asia Pacific Symposium on Pain Control. Singapore, Sept.
  - 14) 内海裕文，井上大輔，柵山年和，相羽恵介，小林 直，落合和徳。膵臓癌の疼痛管理に対する早期の腹腔神経叢ブロックの有効性—奏功症例からの検討。第123回成医会。東京，10月。
  - 15) 井上大輔，吉澤明孝，柵山年和，相羽恵介，小林 直，谷藤泰正，落合和徳。医学生に対する効果的な緩和ケア教育の検討。第123回成医会。東京，10月。
  - 16) 毛利順一，相羽恵介，井上大輔，市場 保，柵山年和，小林 直，落合和徳，吉山友二，菅家甫子。がん専門薬剤師の基盤要件。第44回日本癌治療学会総会。東京，10月。
  - 17) 市場 保，井上大輔，柵山年和，相羽恵介，小林 直，落合和徳。終末期癌患者の体液過剰症候に対する輸液量制限の有用性。第44回日本癌治療学会総会。東京，10月。
  - 18) 小林 直，相羽恵介，柵山年和，井上大輔，市場 保，毛利順一，内田 賢，兼平千裕，鈴木正章，落合和徳，倉石安庸。乳癌におけるNeoadjuvant FEC 100-Docetaxel (TXT)の遂行可能性。第44回日本癌治療学会総会。東京，10月。
  - 19) 薄井紀子，浅井 治，矢野真吾，武井 豊，矢萩裕一，杉山勝紀，山口祐子，齋藤 健，大川 豊，小林 直，牧 信子，大澤 浩，土橋史明。慢性期慢性骨髄性白血病に対するImatinib療法 当科における初期30日間投与量と有効性の検討。第44回日本癌治療学会総会。東京，10月。[日癌治療会誌 2006; 41(2): 708]
  - 20) Inoue D, Matumoto M, Oku K, Takahashi Y, Aoba T. The prevention of the cervical spinal cord injury by the start diving at the Masters swimming meet in Japan. Asics Conference of Science and Medicine in Sport. Fiji, Oct.
  - 21) 毛利順一，加藤潤一郎，須田奈美，菊野史豊，高橋直人，石橋由朗，柏木秀幸，矢永勝彦，相羽恵介，柵山年和，小林直，落合和徳，名取一彦，倉石安庸，吉山友二，菅家甫子。隔日24時間持続肝動注療法が奏効した多発性肝転移を有する原発進行食道癌の1例。第53回日本化学療法学会東日本支部総会。東京，10月。
  - 22) 小林 直。より満足度の高い乳癌化学療法をめざして—治療成績の向上と副作用の軽減—。埼玉乳がん臨床研究グループ第9回乳がん治療情報交換会。埼玉，10月。
  - 23) 飛内賢正，山口素子，小口正彦，柵木信男，鈴木孝世，正木康史，伊藤国明，松野文彦，薄井紀子，植田いづみ，加賀美芳和，中村栄男，堀田知光，押見和夫。限局期鼻NK/T細胞リンパ腫に対する放射線治療とDeVIC療法同時併用の第I/II相試験(JCOG0211-D1): 第I相の結果。第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会。福岡，10月。[臨血 2006; 47(9): 1033]
  - 24) 矢萩裕一，土橋史明，矢野真吾，大澤 浩，武井 豊，山口祐子，南 次郎，丸山 大，牧 信子，小林達之助，浅井治，薄井紀子。イマチニブ投与により，視神経乳頭浮腫および網膜白斑を認めた一例。第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会。福岡，10月。[臨血 2006; 47(9): 1119]
  - 25) 高原 忍，山田順子，関川哲明，山崎泰範，山田 尚，薄井紀子。Lymphoplasmacytic Lymphomaと異なる細胞由来のDiffuse Large B-cell Lymphomaを併発した症例。第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会。福岡，10月。[臨血 2006; 47(9): 1127]
  - 26) 小林達之助，齋藤 健，矢野真吾，大澤 浩，武井 豊，矢萩裕一，山口祐子，南 次郎，丸山 大，土橋史明，浅井 治，薄井紀子。同種造血幹細胞移植後に，好酸球増多を伴ったTMAと脳血管病変を合併したAML (M4) の1剖検例。第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会。福岡，10月。[臨血 2006; 47(9): 1175]
  - 27) 南 次郎，土橋史明，浅井 治，矢野真吾，大澤 浩，武井 豊，矢萩裕一，高原 忍，小笠原洋治，上田響子，二階堂孝，薄井紀子。Mediastinal gray zone lymphoma (MGZL)と考えられた2症例。第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会。福岡，10月。[臨血 2006; 47(9): 1273]
  - 28) 大澤 浩，土橋史明，武井 豊，矢萩裕一，高原 忍，杉山勝紀，山口祐子，南 次郎，丸山 大，海渡 健，

浅井治, 薄井紀子. 造血管腫瘍に伴う高カルシウム血症に対するゾレドロン酸の治療経験. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会. 福岡, 10月. [臨血 2006; 47(9): 1277]

- 29) 武井 豊, 浅井 治, 矢野真吾, 矢萩裕一, 大坪寛子, 山口祐子, 南 次郎, 小林達之助, 丸山 大, 海渡健, 土橋史明, 薄井紀子. 重症型再生不良性貧血に対する血縁骨髄移植 day0 にシクロスボリン脳症を発症した経験. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会. 福岡, 10月. [臨血 2006; 47(9): 1176]
- 30) 山口祐子, 土橋史明, 大澤 浩, 矢野真吾, 矢萩裕一, 杉山勝紀, 小笠原洋治, 斎藤 健, 大川 豊, 小林直, 浅井 治, 薄井紀子. 再発・治療抵抗性急性骨髄性白血病 (AML) に対する gemtuzumab ozogamicin (GO) の治療経験. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会. 福岡, 10月. [臨血 2006; 47(9): 1101]
- 31) 玉井勇人, 山口博樹, 浜口裕之, 矢ヶ崎史治, 別所正美, 秋山秀樹, 坂巻 壽, 高橋 聡, 東條有伸, 大嶺謙, 小澤敬也, 奥村廣一, 中尾真二, 新井文子, 三浦 修, 豊田茂雄, 加藤 敦, 押味和夫, 五味聖二, 村井善郎, 薄井紀子, 猪口孝一, 檀 和夫. 本邦における 11q23/MLL 遺伝子再構成をもつ成人急性白血病の特徴と予後. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会. 福岡, 10月. [臨血 2006; 47(9): 1026]

## V. その他

- 1) 大川 豊, 島田 貴, 永崎栄次郎, 野里明代, 溝呂木ふみ, 小林正之. 再発性濾胞性リンパ腫に対するクラドリン治療6ヶ月後に発症した肺クリプトコッカス症. 臨血 2006; 47(7): 650-5.
- 2) Kaito K, Otsubo H, Takahara S, Hyouki M, Abe M, Abe I, Usui N. Carcinoembryonic antigen-producing multiple myeloma detected by a transcription-reverse transcription concerted reaction system. Int J Hematol 2006; 85(2): 128-31.
- 3) Saito T, Usui N, Asai O, Dobashi N, Ida H, Kawakami M, Yano S, Osawa H, Takei Y, Takahara S, Ogasawara Y, Yamaguchi Y, Minami J, Aiba K. Pseudo-Gaucher cell proliferation associated with myelodysplastic syndrome. Int J Hematol 2007; 85(4): 350-3.
- 4) 薄井紀子. 私のこの一枚 Philadelphia 染色体陽性急性リンパ芽球性白血病. 血液フロンティア 2007; 17(4): 445-9.

## 呼 吸 器 内 科

助教授: 田井 久量	呼吸器病学
助教授: 佐藤 哲夫	呼吸器病学
講 師: 竹田 宏	呼吸器病学
講 師: 矢野 平一	呼吸器病学
講 師: 児島 章	呼吸器病学
講 師: 古田島 太	呼吸器病学
講 師: 望月 太一	呼吸器病学

## 研 究 概 要

肺腫瘍, 間質性肺炎, 感染症, 呼吸不全, 気管支喘息, COPD など多岐にわたる呼吸器疾患に対して臨床研究を行った。結果は, 日本語症例報告論文, および日本呼吸器学会において発表した。

### 「点検・評価」

臨床における問題点を症例報告として発表し, また学会報告も行ったことは評価できるが, 英文がないこと, 原著論文がないことは今後のさらなる努力が必要である。

## 研 究 業 績

### I. 原著論文

- 1) Date T, Shinozaki T, Yamakawa M, Taniguchi I, Suda A, Hara H, Yamane T, Komukai K, Sugimoto K, Mochizuki S. Elevated plasma brain natriuretic peptide level in cardiac sarcoidosis patients with preserved ejection fraction. Cardiology 2006; 107: 277-80.
- 2) 石川威夫, 望月英明, 諸川納早, 林 毅, 佐藤 周, 関 晋吾, 児島 章. 当院において循環器疾患としてCCUへ緊急入院となった呼吸器疾患症例の検討. 慈大呼吸器研会誌 2006; 18: 57-60.
- 3) 高木正道, 斎藤桂介, 矢野平一, 田井久量. 多発性薄壁空洞結節影を呈した膀胱癌肺転移の1例. 日呼吸会誌 2006; 44(10): 771-4.
- 4) 高木正道, 矢野平一, 竹田 宏, 田井久量. 労作時呼吸困難で発見された肝肺症候群の1例. 日胸臨 2006; 65(11): 1024-9.
- 5) 高木正道, 秋葉直志. 重症筋無力症に合併した原発性肺癌の1切除例. 日呼吸器学会誌 2006; 44(12): 997-1001.
- 6) 高木正道, 皆川俊介, 斎藤桂介, 矢野平一, 最上拓児, 原田潤太, 大村光浩, 山口 裕. 肺線維症合併全身性強皮症に発生した進行性胃癌の1剖検例. 慈恵医大柏病医報 2006; 14(1): 28-32.